



p4cみやぎ 12月研修会報告

オンラインによる p4c みやぎ 12月研修会

12月22日(水)、オンラインによるp4cみやぎ12月研修会を開催いたしました。

研修Ⅰでは、宮城教育大学上廣倫理教育アカデミー教務補佐員の渡邊文さんが「p4cHawaiiを支える組織、連携活動について」と題して話題提供を行いました。また、研修Ⅱでは、3グループに分かれ、「曖昧さは人間関係に必要か。」という問いでp4cを行いました。今回は、26名の方々の参加となりました。

【研修Ⅰ】

話題提供：「p4cHawaiiを支える組織、連携活動について」

講師：ハワイ大学大学院生（宮城教育大学上廣倫理教育アカデミー教務補佐員）

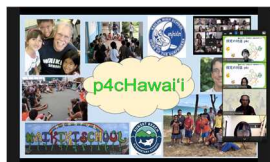
渡邊 文さん

◎p4c ハワイは、p4c ハワイのコミュニティに関わる多くの人々の試行錯誤の継続の結果成り立ち、今も成長し続けている。

大きな理念、使うツールなどは用意されていても、それが決まった一つの教育方法として存在しているわけではなく、文化のようなものとして存在している。

◎p4c ハワイの4つの柱

- 1 コミュニティ
- 2 探究
- 3 哲学
- 4 振り返り



4つの柱を軸に、ハワイの先生、子供たちがp4cを行っており、それを支えているのが、ハワイアカデミーのメンバーである。

ハワイアカデミーは、p4cを先生たちに教える立場ではなく、一緒にp4cを行い、振り返りを行うことで、よりよいコミュニティを育てるにはどうすればよいか、子供たちのワンドーを引き出すにはどうすればよいかを一緒に考え、支える立場にある。

◎カイルア高校のPhilo Surfersの取り組み…高校生が近隣の小中学校で、p4cのファシリテーターを行う。そのため、多くの小中学校でp4cが実践されるようになった。先生、生徒と一緒に輪に入ることも重要である。

◎自分自身、学んだことの一つに、協働する人を信じて、一緒に何かを創り上げることに喜びを感じるということがある。

p4c ハワイの活動は、他者への愛情を持ち、人々と共に何かを創り上げていこうとする活動である。p4cとは何か、どうしたらよいか、何が得意か、どんな助けが必要かなど、他者と対話をしながら試行錯誤を続けること、真理の探究を続けることである。

【研修Ⅱ】

本日の問い：「曖昧さは人間関係に必要か。」

〈A グループ〉

◎周りの人と折り合える大切さが、曖昧さにはある。曖昧さの中で、相手を理解できることもある。◎日本人の良さでもあるが、海外の人との関係では、はっきり言える力も必要である。

◎子供には、いろいろな考えを聞いたり、違う言い方で話をしたりするようにしている。

〈B グループ〉

◎全くなかったら、ぎすぎすした人間関係になってしまう。どうしても割り切れないものがあり、曖昧だからこそ共有できるものもある。

◎はっきり言うことで、恨まれることを恐れてしまう。曖昧な言い方は伝わらないこともある。

◎わざと曖昧にすることで、相手に考えさせることであると、相手を信じたい。

〈C グループ〉

◎曖昧さがあるからこそ、想像しながら関係性が生まれることがある。

◎子供同士の関係の中で、良い意味での曖昧さが必要なきもある。

◎誤解を生まないために、はっきりと伝えることが必要な時もある。伝える努力も必要である。

HP (<https://p4c-miyagi.com/>)

Mail (p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp)